

ノロウイルス感染症



ノロウイルスのはやる季節になってきました。昨年11月29日(金)NHK総合「ほっとイブニング」にて「家庭でできるノロウイルス対策」に谷口清州医師と服部恵子副看護師長が出演、また12月19日(木)同じく「ほっとイブニング」にて「ノロウイルスの入院患児・家族及び先生のインタビュー」に谷口清州医師が出演しました。ノロウイルスについてあらためてお話しましょう。

ノロウイルスは、1968年に米国オハイオ州ノーウォークの小学校で発生した集団胃腸炎から初めて検出されたもので、当初はその地名からノーウォークウイルスと呼ばれましたが、正式には「ノーウォーク」の英語の最初の文字をとって、ノロウイルスと名付けられています。ノロウイルスと一口に言ってもたくさんの種類のものがあります。流行シーズンにはいくつかの種類のノロウイルスが流行しますし、年によっても流行するウイルスの種類は変わります。一つの種類のウイルスに感染すると体内に免疫(抗体)ができますが、この免疫は数ヶ月しかもちませんし、必ずしも感染を予防できませんので、何度でもかかります。

ノロウイルスはヒトの体内でしか増えることはできませんが、物理的に非常に強く、低濃度の塩素消毒や温度変化、乾燥しても生きていますので、患者さんの糞便中に排泄されたウイルスはヒトへの感染源となり、また下水から河川、海へ流れていって海のカキあるいはその他の二枚貝類のなかに吸入され濃縮されてそのなかで生きています(増殖はしません)、これらのウイルスで汚染された貝類を加熱不十分で食べることによって、再びヒトへ戻ってきます。ノロウイルスはこのようにして、ヒトからヒトへそして環境のなかを巡って生きながらえているのです。

感染すると、24～48時間で症状がでてきますが、たくさんのウイルスが入ると12時間程度で発症することもあります。突然の嘔気、嘔吐、下痢が主症状ですが、通常は12～60時間で自然に治ります。

嘔吐があっても、しばらくして嘔吐が落ち着いてきたら、市販の経口補液剤などで少しずつ水分や電解質を補給して脱水になるのを予防できます。体力があってこの時期を乗り切ることができれば、そのまま治っていきますが、嘔吐が強くて水分補給ができなかったり、大量の下痢が続いたりすると脱水になってしまう危険があります。なかなか嘔吐が止まらない、元気がなくなってきた、おしっこが減ってきた、口の中が乾いてきたりとかの症状があったら、医療機関に相談していただくことが必要になります。吐き気止めなどを使用して、少しずつ水分がとれるようになればよいのですが、脱水が進行する場合には点滴をして、水分と電解質を補うことが必要になります。

ノロウイルスは非常に感染力が強く、またアルコール手指消毒剤ではウイルスは死にません。日常生活では、石けんで手洗いをして物理的に洗い流すのがもっとも効果的です。トイレの後、食事の前、調理の前、おむつ交換の後、そして嘔吐物や下痢便の処理の後に行うことが重要です。タオルの共用は避けたほうが無難です。症状のある人はとくに重要ですが、無症状キャリア^{*}からの感染もあるので、自分のためにも他のヒトのためにもすべてのヒトが手洗いを励行していただくことが肝要です。

(国際保健医療研究室長 谷口 清州)

*キャリア…感染しているが発症していない人のこと



医療安全管理室からのお知らせ 11 “医療安全推進週間の取り組み”

昨年度の医療安全週間は11月24日～11月30日で、11月25日(良い医療に向かってGO)を含む1週間でした。

毎年、外来ホールに院内の医療安全に関する取り組みを掲示します。

今回は、自宅での事故防止対策も展示しましたので、次号にその内容をご紹介します。

(医療安全管理係長 高木 喜代美)

医療安全推進週間

平成25年11月24日(日)～11月30日(土)
11月25日(いい医療に向かってGo)を含む1週間